

☆伊賀市立柘植中学校区の取組

◆事業概要



1 中学校区の現状と課題

昨今の格差社会の進行は、中学校区の子どもたちにも様々な影響を及ぼしています。このことは、子どもたちの低学力傾向や将来展望を持ち得ない姿に象徴されています。そこで、子ども支援ネットワーク委員会で、教育的に不利な環境のもとにある子どもの実態を共有し、課題解決に向けて、地域住民や保護者がどう関わっていけばよいかを明確にしました。そのうえで、解決のための具体的な取組を企画し、高まりつつある自尊感情を基盤にして学習意欲を高め、学力保障をしていく取組を進めてきました。また、将来への展望をもたせるための具体的な取組や手立てを考え、実施しました。

2 課題解決のための主な取組

(1) 子どもをサポートする大人の研修会

① 小・中学校「教育講演会」

地域住民や保護者が、子どもたちの自尊感情を高めるために、大阪教育大学の園田雅春さん（現在、大阪成蹊大学）を講師に迎え、教育講演会を行いました。家族から「何よりもあなたが大切」というメッセージをもらうことで、子どもは元気になり「自分が価値ある存在」と思えるようになることや、「自尊感情」を高めることが学習意欲や人権感覚の向上につながり、しんどい時にふんばる力になるという内容の話をしていただきました。

② 柘植中学校PTSA人権研修部会（クローバーサークル）の活動

地域を上げて子どもを支援している大阪府八尾市立桂中学校に出向き、視察研修を行いました。10年目を迎える節目の「反差別集会 みんなに伝えるこのおもい 2013 in 八尾」に、柘植中学校の保護者と地域住民、教職員が参加しました。集会の後半では、分散会にみんなで参加させていただき、八尾の人々と反差別の思いを共有しました。



人権研修会の様子

③ 柘植地域フェスティバル

人権活動に取り組む保護者や地域住民の思いを生徒に伝えることで、生徒の共に行っていく意欲が高まると考えました。そこで、今まで柘植中学校で行っていた文化祭を、地域に開いた形の柘植地域フェスティバルとして開催しました。午後からは、生徒と共に人権問題を考える場として、露の新治さんの講演会を開催し、人権を幅広く捉えることの大切さや一人ひとりのかけがえのない命を大切にすることなどを話していただきました。

④ モデルロケット教室

北海道の植松電機から植松努さんを招き、校区の保育園児、小中学生、保護者、地域住民を対象に「モデルロケット教室」を開催しました。「思うは招く」と題して、夢をあきらめないことが自分の夢の実現につながることを話していただきました。

(2) キャリアビジョン（デザイン）を育てる取組

① 「つげコレクション」

子どもたちに将来展望を持たせ、職業観を育てるために、地域の先輩の宮島紳二さん（柘植小・中学校OB）に来てもらい、彼の生き方に触れる機会を持ちました。また、プロのモデルや保護者、児童、教職員も参加したファッションチェックやファッションショーも行いました。子どもたちは服飾の仕事の一端を知り、宮島さんの「夢を追いかける姿」から、自分の夢の実現に向け、がんばることのすばらしさを感じていました。



つげコレクションの様子

② 大学体感事業

「子どもの進路の一つに、大学進学を考えたい。子どもたちは小学校や中学校で大学体験しているから、保護者の私たちも行ってみたい。私たちも大学を体感すれば、子どもと進路の話ができそうな気がする。」という保護者の思いを受け、大学体感事業を実施しました。

◆実践を振り返って

「学校診断票」による検証によると、小学校では、学習意欲に関する項目の数値が向上しました。保護者が研修会等で子どもへの接し方を学び、家庭学習強調月間で宿題に特化して働きかけを行ったことで、効果があらわれたと考えます。また、中学校では、子どもの活躍の場を保障することで、一人ひとりをエンパワメントすることをめざしてきた効果があらわれたと考えます。中学校区では、地域ぐるみで子どもたちの見守りと支援を行い、地域や保護者が積極的に係わり、子どもたちに励ましの声をかけました。これからも、教育的に不利な環境のもとにおかれた子どもたちの学びを保障し、学力格差を改善していくために、子どもがおかれた状況を的確に把握し、地域と共有して具体的な取組を続けていきたいと思えます。